

学校ICT革命

見よ!👁️これが令和の教室だ!!!

市では、国の「GIGAスクール構想」に基づき、1人1台の学習用端末を整備したほか、小学3年生から中学3年生までの通常学級と特別支援学級、特別支援学校に電子黒板を設置しています。また7月からは、ICT支援員を19人配置し、各学校に週1回程度、ICTを活用した授業を技術面からサポートする体制を整えました。

☎総合教育センター☎422-7730



(写真は二宮小)

GIGAスクール構想とは

1人1台の端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、ICT(情報通信技術)環境を整えることで、一人一人に合った学びを行い、資質・能力を一層育成できる構想です。市では、電子黒板や端末などのICTを使った授業を行っています。

子どもや先生の強い味方! ICT支援員を配置



ICTを使っていると、機器の不具合や使い方の疑問など、困り事が発生します。市では、それらをサポートするICT支援員を配置しました。ICTの活用がスムーズに進むよう、児童・生徒や先生の強い味方として、お手伝いしていきます。

学習用端末でできること



児童・生徒の考えを端末を通して共有できます



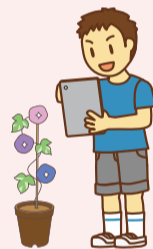
自分の回答を端末を通して先生に提出し、電子黒板に映し出せます



重要なところに線を引いたり、先生の解説を書き込んだりできます



カメラ機能があり、植物の成長過程等を写真で記録できます



技能の格差をなくすために

操作に戸惑っている児童へのサポートや、機器の不具合があるときの対応などを行っています。今の小学生は、小さいときからデジタル機器に触れている世代なので、端末の操作やアプリに慣れるのがとても早いですね。困ったときに、気軽に話し掛けてほしいです。

また、全ての先生がICTをより活用しやすくなるよう、さまざまなサポートや提案をしていけたらと思っています。先生や児童・生徒の皆さんが「困った」ときに、頼れる存在になりたいです。

ICT支援員 山岸 睦子さん



児童の考えを素早く集約できるようになりました

毎日、端末を活用した授業づくりに取り組んでいます。児童の考えを素早く手元に集約できるのは、非常に便利です。また、プリントを印刷する時間が省略できるので、働き方の改善にもつながっています。

端末導入の良さを実感しているのは、道徳科での活用です。児童がデータで提出することで、考えを素早く集約したり、これまでの感想などを振り返って助言指導を工夫したりできるようになりました。目的に応じて匿名にすることもできるので、子どもたちは安心して自分の考えを書くことができます。児童がこれまで以上に多くの考えに触れることで、お互いの良さを認め合ったり、共感し合ったりする機会が増えたことは、担任として嬉しい限りです。

二宮小 西川 幸太郎 教諭



子ども記者通信

学習用端末を活用した授業

二宮小6年 金子 彩良さん



私たち6年生の授業では、お互いの意見を伝え合ったり、共通の課題を解決したりするために学習用端末を使っています。朝の会や帰りの会で、電子黒板に端末の画面を映しながら会を進行することもあります。

低学年では、カメラ機能を積極的に使って、アサガオの成長を記録したりマット遊びの技を撮影し合ったりしています。中学年では、自分が撮影した写真を共有したり、アンケートをとったりすることで、自分の伝えたいことが今まで以上に短い時間で伝えられるようになったそうです。また特別支援学級では、それぞれの個性に合わせて、自分に合った課題を端末で個別に学んだり、黒板に書いたことを写真に撮って自分のペースで書き写したりしています。

うまく使うことで良い面はたくさんありますが、大切なのは、人が話しているときはしっかり聞いたり、目的を持って調べたりすることだと思います。これからも良い使い方をみんなと一緒に考えていきたいです。

情報教育の研究指定校・二宮小での取り組み

①家でも学校でも

7月からは端末を持ち帰り、家でも学校でも使える環境を整備しました。夏休みにはオンライン授業を実施しています。

②児童の体調も端末で管理

新型コロナウイルス対策として、登校したら、まず児童が自ら端末で今日の体調を入力しています。

③先生向けの放課後10分間レクチャー

機器のつなぎ方やアプリの使い方などに詳しい先生が、他の先生たちに細かく教えるワークショップを実施しています。子どもたちのスピードに負けてられません!